

北海道の新・ご当地グルメを詰め合わせた駅弁



北海道グルメ 集めて駅弁に

駅弁製造販売の札幌駅立売商会(札幌)は、オホーツク北見塩やきそばや十勝管内芽室町のコーン炒飯など、地元食材を生かした「北海道新・ご当地グルメ」を詰め合わせた駅弁を開発した。19日から9月30日まで

駅弁は新・ご当地グルメの推進団体が認定した道内18メニューから「冷めてもいいし」4種類を選んだ。他の二つは留萌管内羽幌町の羽幌えびタコ焼き餃子と、上川管内南富良野町のエゾシカ肉のカツカレー。1個

札幌駅構内 19日から販売

で、JR札幌駅構内の駅弁売り場8カ所で販売する。980円で、1日約50個を販売する。

JR北海道が中心になって道外の観光客を呼び込む、来年7～9月の「北海道ステイネーションキャンペーン」を盛り上げようと企画した。

札幌駅立売商会の州崎昭光取締役営業部長は、13日の記者会見で「現地の味を極力再現した。道外から来た観光客が、現地に足を運ぶきっかけになれば」と話していた。